

第3回政策討論会の概要及び主な意見等について

○協議事項

- ・「丹波篠山」使用の混乱状況について

○概要

資料に基づき説明

○主な意見等（Q：議員、A 座長等、「・」は意見）

Q：「丹波篠山」使用の混乱状況について、丹波市ではこうした混乱があるとか、広く調査する方法はないものか。

A：丹波市へ行って住民の人と話をした時、篠山と間違われて困っていると言っていた。丹波市にも混乱状況があることは事実である。

Q：混乱状況は一方からしか整理されていないので、第三者から見て公平な視点でまとめていく必要があるのではないか。

A：テレビ番組の小豆の取材で篠山市が放映されていた。混乱は両方にあるのではないかと考える。

・「要望団体からの聴き取り結果とその確認」において報告のあった項目は、個人や店の状況等、個別事情に留まるものであり、全体的な混乱状況の流れを掴んではいないと考える。

「丹波篠山市」に変更した場合にどのような効果があるのか、丹波市が誕生してから篠山市の特産品や観光客の流れがどのように変わってきたのか等、データを踏まえて、大局的な議論を議会として行う必要があるのではないか。

・丹波市の議員は視察に行つて篠山市かと聞かれることがあるそうである。そうした意見を聞く必要もあるのではないか。篠山市民の意見では、市名変更を望むのは一部、変えなくてよい人は一部、その他は関心がないのが流れである。プラス、マイナスの意見を充分聞き、机上の空論にならないようにすべきである。

・市は、過去に「丹波」と「丹波市」を区別して使用してほしい旨の願いをしてきたが、観光パンフレットにおいて、使い分けの配慮がなされていない事例が見受けられる。また、篠山出身で全国で活躍されている人のふるさとの誇りとしても整理する必要があるのではないか。

○協議事項

- ・「地域ブランド調査報告 2016」等からみる丹波地域における自治体の状況について

○概要

資料に基づき説明

○主な意見等（Q：議員、A：座長等、「・」：意見）

・「丹波篠山」から「篠山」ではなく「丹波」が思い浮かぶので、丹波市のふるさと納税が多いのではないかとと思われる。

・先人の努力、歴史、文化、地域の人々の誇りなど数値化できないところも今後、議論が必要かと思われる。

・「丹波篠山」の定義が曖昧になってきていることは理解できるが、「ブランド」の問題である。ブランドを確立するために、どうすればよいかとの議論が建設的ではないか。

○その他

・「丹波篠山市」という市名は、丹波ブランドを積極的に篠山市として活用しようとするものであると理解する中、丹波ブランドは兵庫丹波と京都丹波の共有財産であることも忘れてはならないのではないか。

・丹波篠山産に対する原産地表示の指導があったことは真剣に考えないといけないのではないか。丹波篠山が地名として認められなかったことは大きな課題であり、市内で生産される農産物に丹波篠山産と付けられなければ様々な課題があると感じた。それを守っていく対策が必要である。

・篠山のあるべき姿としては、「篠山市」を広める、「篠山」ブランドを確立しないとけない。篠山が丹波を名乗れば、余計に混乱を招くのではないかと危惧する。